

【薬学部 ディグリー・ポリシー】

岡山大学薬学部は、所定の期間在学し、所属学科の定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、人々の健康の持続的・恒久的な維持・増進に貢献できる以下の5つの学士力を身につけたものに学位を授与する。

人間性・倫理観に富む教養【教養】

自然や社会、健康や疾病など多様な問題に対して関心を持ち、主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有している。また、医療や創薬に従事する人に相応しい、豊かな人間性や高い倫理観に裏打ちされた教養を身につけている。

目的につながる専門性【専門性】

医薬品の適正使用や開発研究を推進する実践的能力を発揮するため、生命科学、疾病、医療に関する幅広い専門知識と技能を身につけている。

情報を的確に収集・活用できる情報力【情報力】

医療領域のみならず、自然や社会の幅広い領域の情報を自ら収集・分析し、正しく活用できる能力を有すると共に、効果的に情報発信できる。

時代と社会をリードする行動力【行動力】

医療領域のみならず、社会生活に求められるコミュニケーション能力、グローバル化に対応した国際感覚や言語力を有している。また、人との共感的態度を身につけ、地球規模から地域社会に至るまで、時代と社会をリードする行動ができる。

生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

スポーツ・文化活動等に親しむことを含めて、生涯に亘って自己の成長を追求し、自立した個人として日々を享受する。また、薬学や生命科学の発展に寄与するため、高い学習意欲を持ち研鑽を積むことができる。さらに、コミュニケーションを通じて、集団の中で自己研鑽の成果を共有することができる。

【薬学部 カリキュラム・ポリシー】

薬学部では、本学部ディグリー・ポリシーに掲げる5つの学士力(人間性・倫理観に富む教養、目的につながる専門性、情報を的確に収集・活用できる情報力、時代と社会をリードする行動力、生涯に亘る自己実現力)を備え世界の多様な課題に取り組み、人類社会の持続的・恒久的な発展に貢献できる人材を育成するため、教養教育科目と専門教育科目で構成される体系的なカリキュラムを提供しています。

1・2年次には、外国語、リベラル・アーツ、スポーツなどの全学規模で開講される教養教育科目に加え、各学科で開講する専門基礎科目やガイダンス科目および専門科目を通じ、専門教育の基本となる知識や技術について学びます。3年次以降、各学科でより専門性の高い専門教育科目を履修するとともに、それまでの専門教育科目で修得した知識を、自ら実践・確認しより深く理解するため、実習科目が設定されています。さらに、卒業研究として各研究分野の最先端の研究テーマに取り組むことにより、それまで学習した理論、技術、知識を実践的問題に応用して、専門知識の修得のみならず課題探求能力、行動力等も身につけさせる教育を行っています。学習成果は、授業の特性に合わせ、試験・レポート・授業での課題等により、実験や実習では、授業での課題の実施状況やレポート等で総合的に評価します。課題研究では、課題への取り組み状況や成果等の発表の状況により評価を行います。また、学期ごとに各学生の学習状況を確認し、必要に応じて個人指導を行っており、一定の単位修得条件を満たした学生が、進級および学位を認定されます。

【薬学部 アドミッション・ポリシー】

教育内容・特色

薬学とは、以下の各要素からなる、複合的な学問分野です。

- 1)解析：生命現象，疾病原因の分子基盤を解き明かす。
- 2)創出：機能を制御できる物質を創出する。
- 3)活用：開発・発見された物質の活用法を最適化し，さらには新たな活用の方策を創案する。

岡山大学薬学部では，これらの活動を担う人材を育成するために，関連する基礎，応用の科学，技術を修得させ，また自ら新しい知を創生するための，観察力・直観力・分析力・論理力・研究遂行能力・発信力を練磨します。さらに，社会的使命・倫理観を持ってその成果を正しく活用し，持続的・恒久的な国際社会の発展に寄与する人材を育成します。

このため，薬学部では所属学生に対し，解析・創出・活用に共通の教育基盤を与え，薬学科では特にヒトに対する物質の「活用」を担うための専門的知識を身につけた人材(薬剤師)を，創薬科学科では，解析・創出・活用に係わる研究開発を担う人材を育成し，人々の健康の維持・増進に，持続的・恒久的に寄与することを目指します。

求める人材

薬学とは，化学，生物学，物理学などの基礎科学からバイオテクノロジーなどの応用科学までも含んだ生命科学であり，人間の生命・生活にとって有益な「薬」を開発，製造，適正使用するための科学技術の基本となる学問領域です。岡山大学薬学部では，入学後の修学に必要な，①高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を有する人，②専門分野に関連する科目への高い理解度と応用能力が期待できる人，を選抜します。入学後の学修のため，高等学校においては，理科(物理・生物のいずれかと化学)，外国語(英語)，数学，国語，地理歴史・公民を修得していることを望みます。さらに薬学部では，以下の要素を併せ持つ人を求めます。

1. 優れた倫理観を有する人
2. 目的意識と情熱を持っている人
3. 豊かな人間性を備え，人とのかかわりを積極的に持とうとする人

入学者選抜の基本方針

各学科のアドミッション・ポリシーを参照ください。

【薬学部薬学科 ディグリー・ポリシー】

医療・衛生分野の持続的・恒久的な発展に貢献できる以下の5つの学士力を身につけたものに，学位を授与する。

人間性・倫理観に富む教養【教養】

健康や疾病のみならず，自然や社会に関する多様な問題に関心を持つ。また，主体的な問題解決に向けての思考力・判断力・創造力を有し，医療に従事する人に相応しい，豊かな人間性や高い倫理観に裏打ちされた教養を身につけている。

汎用的な知識と技能に基づく基礎的専門性【専門性-1】

化学物質・生体分子・天然物質に関する総合科学の基礎的な知識と技能を身につけている。

ヒトの健康と医薬品に関わる知識と技能に基づく応用的専門性【専門性-2】

指導的立場で，医薬品の適正使用を推進する。また，医療現場で生じ得る様々な問題を発見，解決できる薬剤師として，高い専門的知識と技能を身につけている。

臨床・研究に関わる専門性と倫理観【専門性-3】

臨床・研究に携るために必要な基礎的能力と倫理観を身につけている。

情報を的確に収集・活用できる情報力【情報力】

医療，疾病，医薬品のみならず，自然や社会の幅広い領域の情報を自ら収集・分析し，正しく活用できる能力を有すると共に，効果的に情報発信できる。

時代と社会をリードする行動力【行動力】

薬剤師として求められるコミュニケーション能力、グローバル化に対応した国際感覚を有する。また、人との共感的態度を身につけ、地球規模から地域社会に至るまで、時代と社会をリードする行動ができる。

生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

生涯に亘って自己の成長を追求し、自立した個人として日々を享受すると共に、医療の進歩と薬学の発展に寄与するため、高い学習意欲を持ち研鑽を積むことができる。さらに、コミュニケーションを通じて、集団の中で自己研鑽の成果を共有することができる。

【薬学部薬学科 カリキュラム・ポリシー】

(1) 教育課程の編成:

薬学全般に関わる専門教育科目のカリキュラムを策定しています。また、薬学のみならず、世界の多様な課題に取り組むための社会科学や地球規模の諸問題も理解し、人類社会の持続的・恒久的な発展に貢献できるよう、多彩な教養教育科目と薬学部共通の専門基礎科目を学びます。

1年次には、教養教育科目、ガイダンス科目、専門基礎科目、および物理化学、分析化学、有機化学、生物化学などの専門科目を学びます。2年次以降では、それらと有機的に関連付けた、衛生系、薬理・薬剤系の応用科目が設定されています。3年次以降は、臨床に関わる専門教育科目と、3年次実験の基礎を修得するための実験科目が設定されています。また、3年次・4年次では、卒業研究を希望する研究室に配属し、課題研究のための準備教育を、5年次・6年次では、配属された研究室での課題研究を中心とした密度の濃い専門教育を提供しています。最先端の科学を自ら実施することで、社会の要請に応える専門知識と実践的技術を獲得できる内容になっています。

(2) 教育・学修方法:

少人数授業、能動型形態の授業、ゼミナール、実験科目を多数提供しています。講義科目と実験科目の連携により、観察—仮説—実証—報告という薬学に共通する方法論を身につけるための授業が提供されています。また、これらの授業の中には、発表や議論する機会が設けられているものも多数あり、情報処理能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、共感力、国際性などが身につきます。

(3) 学修成果の評価:

講義内容に関する理解度は、筆記試験によって評価します。実験科目と一部の講義では、レポート課題によって理解度、論理的思考力、表現力を評価します。能動型形態の授業においては、主にプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を評価します。3～5年次進級のための修得単位要件を設定しています。

「人間性・倫理観に富む豊かな教養」を涵養するために、教養教育科目やガイダンス・入門・倫理科目を提供します。

「汎用的な知識と技能に基づく基礎的専門性」を修得するために、物理・化学・生物系の基礎科目と実習関連科目を提供します。

「ヒトの健康と医薬品に関わる知識と技能に基づく応用的専門性」を培うために、基礎科目に関連付けた衛生系、薬理・薬剤系の応用科目と実習関連科目を提供します。

「臨床・研究に関わる専門性と倫理観」を培うために、応用科目に関連付けた臨床系科目と実務実習・卒業研究を提供します。

「情報を的確に収集・活用できる情報力」を獲得するために、合目的に広範な情報を収集し、的確に分析・精選した情報を活用できる演習・実習関連科目を提供します。

「時代と社会をリードする行動力」を身につけるため、日本語でのコミュニケーション能力を培う科目、外国語教養教育科目、実践能力を培う実務実習や卒業研究を提供します。

「生涯に亘る自己実現力」を育成するために、共感的態度やコミュニケーション能力を培う教養教育科目と早期体験科目、及びこれらを礎に他者との関わり方を学ぶ実習関連科目を提供します。

【薬学部薬学科 アドミッション・ポリシー】

教育内容・特色

薬学科では、ヒトの健康を目的として物質を活用する。すなわち薬剤師としての業務を遂行するための専門的知識・技能・態度を教育します。さらに、これらを基にした解析・創出をも含む新たな知の創出を行うために、観察力・洞察力・分析力・論理力・研究遂行能力・発信力を練磨し、もって国際社会における医療・衛生分野の持続的・恒久的な発展に貢献する人材を育成します。

求める人材

入学後の修学に必要な、①高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を有する人、②専門分野に関連する科目への高い理解度と応用能力が期待できる人、を選抜します。入学後の学修のため、高等学校においては、理科(物理・生物のいずれかと化学)、外国語(英語)、数学、国語、地理歴史・公民を修得していることを望みます。さらに薬学科では、以下の要素を併せ持つ人を求めます。

1. 薬剤師にふさわしい優れた倫理観を有し、研究心・探究心を持ち続け、高度な知識と最先端の技術を身につけた薬剤師として活躍したいと考えている人
2. 大学院(博士課程)進学後、薬学関連分野の研究者や教育者を目指したいと考えている人

入学者選抜の基本方針

・一般選抜(前期日程)

5 教科 7 科目(化学は必須)の大学入学共通テストを課し、高等学校卒業レベルの総合的な基礎学力を評価します。個別学力検査では、数学・理科 2 科目(物理・生物のいずれかと化学)・外国語(英語)を課し、薬学科で学ぶ上で基盤となる科目への理解度と応用能力を評価します。面接では、将来薬剤師として求められるコミュニケーション能力、倫理観および研究への関心の高さを評価します。

・総合型選抜(大学入学共通テストを課すもの)

調査書ならびに自己推薦書を通して、自己表現力や学習意欲を総合的に判断します。また小論文と面接により、大学で学ぶ専門領域についての関心や研究心の高さ、自己表現力やコミュニケーション能力、理解度、意欲など、薬学科で学ぶ上での適性を評価します。さらに、5 教科 7 科目(化学は必須)の大学入学共通テストを課し、高等学校卒業レベルの総合的な基礎学力を評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本留学試験(化学は必須)を課し、基礎学力ならびに日本語能力を評価します。その上で、理科 2 科目(物理・生物のいずれかと化学)・外国語(英語)の学力検査により、基礎的知識、応用力、理解度を評価します。また面接を課し、多面的な質問を行い、薬学科で学ぶ上での学習意欲、将来薬剤師として求められるコミュニケーション能力、倫理観、研究への関心の高さなど、適性を総合的に評価します。

・国際バカロレア選抜

成績評価証明書により基礎学力を、自己推薦書、評価書と面接を通して、自己表現力、意欲、将来薬剤師として求められるコミュニケーション能力を判断し、薬学科で学ぶ上での適性を評価します。

学力の3要素対応表

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
一般選抜(前期日程)	○	大学入学共通テスト, 個別学力検査(数学, 理科, 外国語)	◎	個別学力検査(数学, 理科, 外国語)	☆	調査書, 面接
総合型選抜	○	大学入学共通テスト	◎	個別学力検査(小論文), 面接(口述試験を含む)	○	面接 調査書・自己推薦書

(注)◎は特に重視する要素, ○は重視する要素, ☆は総合的な判断となる要素

各要素に対する資料は, 「主とする資料」であり, それ以外の要素でも活用する場合がある。

【薬学部創薬科学科 ディグリー・ポリシー】

創薬・医療分野の持続的・恒久的な発展に貢献できる以下の5つの学士力を身につけたものに, 学位を授与する。

人間性・倫理観に富む教養【教養】

健康や疾病のみならず, 自然や社会に関する多様な問題に関心を持ち, 主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有する。また, 創薬科学を担い生命科学のフロンティアで活躍する人に相応しい, 豊かな人間性や高い倫理観に裏打ちされた教養を身につけている。

汎用的な知識と技能に基づく専門性【専門性-1】

化学物質・生体分子・天然物質に関する総合科学の基礎的な知識と技能を身につけている。

創薬研究に関わる専門性【専門性-2】

創薬研究の実践的能力を発揮するため, 化学系, 物理系領域と生命科学, 疾病, 医療等の生物系, 医療系領域に関する幅広い専門知識と技能を身につけている。

情報を的確に収集・活用できる情報力【情報力】

生命科学のみならず, 自然や社会の幅広い領域の情報を自ら収集・分析し, 正しく活用できる能力を有すると共に, 効果的に情報発信できる。

時代と社会をリードする行動力【行動力】

創薬科学を担い生命科学のフロンティアで活躍する人に求められるコミュニケーション能力, グローバル化に対応した国際感覚を有している。また, 人との共感的態度を身につけ, 地球規模から地域社会に至るまで, 時代と社会をリードする行動ができる。

生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

スポーツ・文化活動等に親しむことを含めて, 生涯に亘って自己の成長を追求し, 自立した個人として日々を享受する。また, 次世代の創薬科学を担い生命科学のフロンティアで活躍するために, 高い学習意欲を持ち研鑽を積むことができる。さらに, コミュニケーションを通じて, 集団の中で自己研鑽の成果を共有することができる。

【薬学部創薬科学科 カリキュラム・ポリシー】

(1) 教育課程の編成:

薬学全般に関わる専門教育科目のカリキュラムを策定しています。また、薬学のみならず、世界の多様な課題に取り組むための社会科学や地球規模の諸問題も理解し、人類社会の持続的・恒久的な発展に貢献できるよう、多彩な教養教育科目と薬学部共通の専門基礎科目を学びます。

1年次には、教養教育科目、ガイダンス科目、専門基礎科目、および物理化学、分析化学、有機化学、生物化学などの専門科目を学びます。2年次以降では、それらと有機的に関連付けた、衛生系、薬理・薬剤系の応用科目が設定されています。3年次には、実験の基礎を修得するための実験科目が設定されています。3年次後半には、4年次で行う卒業研究を希望する研究室に配属し、課題研究のための準備教育を、4年次では、配属された研究室での課題研究を中心とした密度の濃い専門教育を提供しています。最先端の科学を自ら実施することで、社会の要請に応える専門知識と実践的技術が獲得できる内容になっています。

(2) 教育・学修方法:

少人数授業、能動型形態の授業、ゼミナール、実験科目を多数提供しています。講義科目と実験科目の連携により、観察－仮説－実証－報告という薬学に共通する方法論を身につけるための授業が提供されています。また、これらの授業の中には、発表や議論する機会が設けられているものも多数あり、情報処理能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、共感力、国際性などが身につきます。

(3) 学修成果の評価:

講義内容に関する理解度は筆記試験によって評価します。実験科目と一部の講義においては、レポート課題によって理解度、論理的思考力、表現力を評価します。能動型形態の授業においては、主にプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を評価します。3～4年次進級のための修得単位要件を設定しています。

「人間性・倫理観に富む豊かな教養」を涵養するために、教養教育科目や倫理教育を含むガイダンス科目を提供します。「目的につながる専門性」を修得するために、物理化学・分析化学、有機・無機化学、生命科学系の基礎科目を提供するとともに、それらと有機的に関連付けた薬理・薬剤系の応用科目を提供します。

「情報を的確に収集・活用できる情報力」を獲得するために、合目的に広範な情報を収集し、的確に分析・精選した情報を活用できる演習・実習科目を提供します。

「時代と社会をリードする行動力」を身につけるため、研究能力を培う薬学系実習や卒業研究実習を提供します。

「生涯に亘る自己実現力」を育成するために、コミュニケーション能力と共感的態度を培う教養教育科目を提供します。

【薬学部創薬科学科 アドミッション・ポリシー】

教育内容・特色

創薬科学科では、解析・創出・活用の全てにわたり、ヒトを含む生命や、その変化(疾病・病態)との関連を視野に入れた研究開発を遂行するための専門的知識技能を教育します。さらに、これらを基にした新たな知の創生を行うために、観察力・直観力・分析力・論理力・研究遂行能力・発信力を練磨し、もって国際社会における創薬・医療分野の持続的・恒久的な発展に貢献する人材を育成します。

求める人材

入学後の修学に必要な、①高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を有する人、②専門分野に関連する科目への高い理解度と応用能力が期待できる人、を選抜します。入学後の学修のため、高等学校においては、理科(物理・生物のいずれかと化学)、外国語(英語)、数学、国語、地理歴史・公民を修得していることを望みます。さらに創薬科学科では、以下

の要素を併せ持つ人を求めます。

1. 医療に関わる人にふさわしい優れた倫理観を有し、研究心・探求心を持ち続け、創薬関連分野で活躍したい人
2. 大学院(博士前期・後期課程)に進学し、将来の創薬科学を担う教育者や研究者として国の内外で活躍したい人

入学者選抜の基本方針

・一般選抜(前期日程)

5 教科 7 科目(化学は必須)の大学入学共通テストを課し、高等学校卒業レベルの総合的基礎学力を評価します。個別学力検査では、数学・理科 2 科目(物理・生物のいずれかと化学)・外国語(英語)を課し、創薬科学科で学ぶ上で基盤となる科目への理解度と応用能力を評価します。

・総合型選抜(大学入学共通テストを課すもの)

調査書と自己推薦書を通して、自己表現力や学習意欲を総合的に判断します。また小論文及び面接により、大学で学ぶ専門領域についての関心や研究心の高さ、自己表現力やコミュニケーション能力、理解度、意欲など、創薬科学科で学ぶ上での適性を評価します。さらに、5 教科 7 科目(化学は必須)の大学入学共通テストを課し、高等学校卒業レベルの総合的な基礎学力を評価します。

・私費外国人留学生特別選抜

日本留学試験(化学は必須)を課し、基礎学力ならびに日本語能力を評価します。その上で、理科 2 科目(物理・生物のいずれかと化学)・外国語(英語)の学力検査により、基礎的知識、応用力、理解度を評価します。また面接を課し、多面的な質問を行い、創薬科学科で学ぶ上での学習意欲、研究心の高さ、コミュニケーション能力など、適性を総合的に評価します。

・国際バカロレア選抜

成績評価証明書、自己推薦書、評価書を通して、基礎学力、自己表現力、意欲を総合的に判断し、創薬科学科で学ぶ上での適性を書類審査により評価します。

学力の3要素対応表

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
一般選抜(前期日程)	○	大学入学共通テスト、個別学力検査(数学, 理科, 外国語)	◎	個別学力検査(数学, 理科, 外国語)	☆	調査書
総合型選抜	○	大学入学共通テスト	◎	個別学力検査(小論文) 面接(口述試験を含む)	○	面接 調査書・自己推薦書

(注)◎は特に重視する要素, ○は重視する要素, ☆は総合的な判断となる要素

各要素に対する資料は、「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合がある。